

特集 市民活動団体の「店じまい」(解散)

東京都のホームページによれば、現在、小平市のNPO法人数は76件。近々解散を検討している団体が2件ある一方、現在新たに団体をつくるために申請中が1件あります。市内法人数でいえば、一時は90件に迫る勢いでしたが、ここ1、2年減少傾向です。

もっとも、解散は必ずしも否定的なことではなく、場合によっては別の新しい団体が生まれてきて、全体としては活性化する可能性もあります。しかし、世代交代を願いながら解散せざるを得なくなったとしたら残念なことでもあります。どんな事情で解散を決意するに至ったのか、今後の活動は、私たちへのメッセージはなど、2つの団体を取材しました。

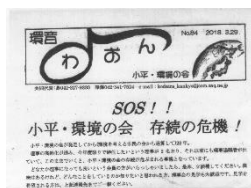
◆NPO法人小平・環境の会の場合・・・・・・・・・・

2人の共同代表のおひとり、島京子さんにお話を伺いました。小平・環境の会は映画「水からの速達」の上映をきっかけとしてできた「環境を考える市民の会」が前身です。NPO法人化は2004年9月。当時は、日の出町の廃棄物処分場問題があり、ごみ減量化の必要性などで自治体も市民も課題解決へ向かって熱い動きが諸所に起こっていました。小平・環境の会もこれまで様々な提案を行い、小学校で環境教育を支援するなど活発に活動していました。

その後、状況が変化し、市民の関心も低下していききました。設立14年たって、会員、とくに役員(理事)が高齢化し、新しい担い手が現れない中、法人を続けていくことが難しくなり、今年度の総会で「法人格を取り下げて任意団体に戻る」という決議をしたとのことです。

環境関係の団体は、平成30年度版市民活動団体データ集「むすぶ」によれば34団体ありますが、ごみ問題についての団体は小平・環境の会のみということで解散を惜しむ声が多くあったそうです。とりあえずは法人格を取り下げて、任意団体として活動していくことになったのですが、いずれは任意団体としても解散することになるだろうと、島さんは話します。団体の解散自体はやむを得ないけれど、活動目的がすべて解決したわけではなく、今後も課題は継続していくと思われる中での解散は残念ですが、今後、新しい団体が生まれてくることを期待されます。

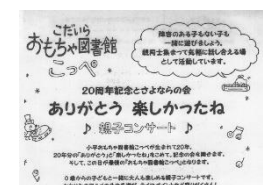
お話の中で、若い人が継続的に活動に参加するためには、NPOで食べていけることが必要かもしれないという話が出ました。若い担い手を増やすためには、「社会貢献活動で食べる」という選択肢も重要です。実際に、そういう選択をする若者も出てきています。それでこそ団体の世代交代もうまれ、継続的・安定的な活動ができるのではないかと思います。



◆こっぺの会(おもちゃ図書館)の場合・・・・・・・・

「おもちゃ図書館」は、「障がいのある子もいない子も共に、様々なおもちゃで楽しく遊ぶことを通し、心豊かに育ちあう場」です。小平市では、こっぺの会という名前で1996年から2015年まで20年間活動してきました。この活動を中心になって担ってこられた高橋匡恵さん、村山豊子さん、佐藤友香さんにお話を伺いました。

会をつくったきっかけは小平社協ボランティアセンターのすすめだったとのこと。障がいのある乳幼児を対象にしての活動は、当時まだまだ珍しかったとのこと。「障がいのある子もいない子も・・・」というフレーズを使ったのはこっぺの会が初めてとのことでした。おもちゃは全国組織である「おもちゃ図書館」からの貸与や寄付など。次の会までおもちゃを置かせてもらう場所を確保するのがたいへんで車の中に置いていたこともあったそうです。訪れる親子も多く、解散するまで利用者が減ることはなかったとのこと。それでも時の経過とともに体力的にきつくなり、若い人を入れようと大学生への働きかけもしてきたけれど、長続きしなかったそうです。参加者に解散を話したときには「やめてほしくない」という声も多かったそうですが、かといって「私がやります」という人は出てこず、「最後をしっかりと閉じる体力がある今が潮時か」と決意したとのこと。おもちゃは小平社協の子ども広場などあちこちに寄付し、「20周年記念とさよならの会—ありがとう 楽しかったね」を開いて、2015年8月に終了。



今回、「体力のあるうちに閉じようと思った」との言葉がとても印象的でした。活動が先細りになり、いつのまにか消えてしまうのではなく、けじめをつけて後始末をしっかりと行い、個々のメンバーはそれぞれに別の活動に取り組んだり、他の活動を応援する側にまわるといって「次につながる解散」だったのではないかと感じました。

市民活動も団体も「ひと」によって担われるもの。個々のメンバーは年も取るし、関心も移っていきます。社会的な課題も、時代によって変化します。団体を固定したものと考えず、「つくるもあり、解散するもあり」と考えるのが自然なことでしょう。むしろ、気軽に社会貢献活動を始める環境・雰囲気があることが大切だと思います。そしてまた、市民活動・社会貢献活動に参加する人の数は確実に増えています。より多くの人々が、それぞれの立場で、気軽に楽しく参加できる社会にしていきたいと思います。

(文責・伊藤)